



○笑顔でノーサイド

県総体が近づいて来ました。三刀屋高校だより『蒼雲』第137号にも書きましたが、県総体では「笑顔」の効用を大事にてもらいたいと思っています。「笑顔」は、試合において、心を落ち着かせる効果、体をリラックスさせる効果、相手に自分には余裕があるという思いを抱かせる効果、チームメイトに安心感を与える効果等々、本当に多くの効果があると思っています。気遣いは、心に「余裕」がないとできません。「笑顔」は心の「余裕」を生みます。何かに結果を残すためには「余裕」が必要です。ギリギリの状態では自分の持っている力を十分に出すことはできません。「心技体」すべてにしっかりとした準備が整い、ある程度の「余裕」があることが結果につながることは間違いありません。そういう意味でも「笑顔」を大事にもらいたいと思います。



先月審判の判定に苦笑いを浮かべたプロ野球ロッテの佐々木朗希投手に対する球審の対応を巡る問題が報道で取り沙汰されました。スポーツ競技の多くに審判や係員、補助員の方などがいて、試合が成立しています。この問題を通して、敬意を払うことの大切さをあらためて感じました。

子どもの頃、「ラグビーは得点を挙げても喜びを表現しない。審判にも抗議をしない。それは走り過ぎて疲れているからだ。」と聞いたことがあります。もちろん間違った解釈です。その後TVドラマ「スクールウォーズ」などを観る中で、ノーサイドの精神を知りました。今は、相手に対する敬意からだと思っています。試合が終了すれば、敵と味方、勝者と敗者の区別はなくなり、お互いの健闘をたたえることがノーサイドという言葉に込められています。そして、試合は相手があって成立することを忘れてはなりません。

実際にラグビーの試合を観ると、試合終了後は両チームの選手が握手をしたり、笑顔で話していたりというシーンを見ます。身体コンタクトが激しく、お互い熱くなる場面が多いラグビーだからこそ、お互いの健闘をたたえ合うという精神が尊重されていると理解しています。ラグビーのユニフォームに襟があるのは、そのふるまいや精神を忘れないためと聞いたことがあります。ラグビー発祥の地であるイギリスでは、試合後に両チームが集まって健闘をたたえ合う「アフターマッチファンクション」というお酒を飲みながら試合についてあれこれと語らうパーティーがあり、そこでは正装で出席するのが決まりとなっていたためという説もあります。ラガーシャツの上からブレザーを着てネクタイを締められるよう、ドレスシャツと同じように首元までボタンを留められるように作られているということらしいです。チョコちゃん風に言えば、諸説あるということでしょうか。

大リーグの大谷選手の大活躍に勇気をもらっている人も多いと思います。大谷選手も時折喜びの感情を爆発させることがあります。でもよく見ると、三振を取った時などのガッツポーズは相手に背を向けてしています。テニスの錦織選手なども、ガッツポーズは相手に背を向けるか、相手を見ずに自分自身を鼓舞し褒めるかのような感じでしています。相手に威嚇的にするようなことはしていません。

いろんなスポーツで、試合前に礼をしたり、握手をしたりします。ボクシングでも、グローブタッチの握手をしてから試合が始まります。日本発祥の柔道も、試合後は握手しています。いろんなスポーツで相手への敬意を忘れないようふるまいがされています。

今はコロナ禍にあって、握手は自粛の競技がほとんどです。しかし、県総体が様々な人のおかげで成立すること、なによりも競い合う相手があるから勝ち負けが決まることを忘れず、そしてそこで最高のパフォーマンスができるよう、笑顔でノーサイドの精神を忘れず、がんばって欲しいと思います。